

町内企業の高度な技術や経営などが称えられる

「ふくしま産業賞」で会津工場が「金賞」、ヒロタテクノが「銀賞」

福島民報社が主催する「第4回ふくしま経済・産業・ものづくり賞（ふくしま産業賞）」の受賞者が昨年12月に発表され、只見町内から(株)会津工場が「金賞」、(株)ヒロタテクノが「銀賞」に輝きました。

このふくしま産業賞は、県内の地域性豊かなものづくりや独自の光る技術を持つ企業などを称えるもので、食品加工や製造業など106の企業・団体・個人から108件の応募がありました。

選考の結果、今年は35社が知事賞、福島民報社賞、金賞、銀賞、特別賞に選出され、見事只見町の2社も金賞と銀賞に入賞しました。

金賞に輝いた会津工場は、自動車関



▲独自のHプロセス工法で製造する会津工場



▲最先端技術を駆使した試作用の複合機を導入しているヒロタテクノ

連部品を中心とした鋳物を製造しており、高精度で大量生産が可能な独自の「Hプロセス工法」で、国内外の自動車メーカーなどの受注を伸ばしています。このHプロセス工法は日本で会津工場だけの特殊技術で、従来の技術と比較すると、鋳造品の軽量化と加工工数の効率化による部品コストの削減に成功し、金型、鋳造、切削などの全工程を社内で一貫管理し、品質の高さと短期出荷を実現しています。この技術を生かし、近年ではアウトドアカーとも連携し、調理器具製造にも挑戦するなど企業の技術力と経営力が今回評価され、金賞受賞となりました。

また、銀賞に輝いたヒロタテクノは、カメラレンズの円筒部分を主に製造しており、1磅(0.001ミ)単位で加工する製品の精密さ、徹底した製品管理、検査体制が特徴です。大手カメラメーカー3社とも直接取引しており、高度な技術が評価されています。社内では、単純作業の工程にロボットを導入して省力化し、従業員は精密さが不可欠な工程を担っています。高精度・高品質な光学部品製造メーカーとしてだけでなく、地元の雇用を守る企業としても高い評価を受け、今回の銀賞受賞となりました。

ふくしま産業賞の表彰式は、2月8日に郡山市内で行われる予定です。

-Interview-



(株)会津工場
代表取締役社長
鈴木 直記さん
設立/1977年10月
従業員数/115人

今回の金賞を受け、とても光栄に感じております。会社を評価していただいたことよって、弊社で働きたいとの問い合わせも増え、人材確保の面でも良い反響がありました。

今後は、南会津町南郷地域の新工場が8月に稼働する予定なので、本社工場と同規模の生産を目指し、受注体制の整備や人員確保に力を入れていきたいと考えています。

-Interview-



(株)ヒロタテクノ
代表取締役社長
山内 宏二さん
設立/2009年3月
従業員数/67人

今年の3月で会社設立10周年を迎える節目の年に、このような賞をいただき社員一同大変うれしく思います。従業員の日々の努力に支えられながら、これまでの10年は設備投資を行い他者との差別化を図ってきました。これからの10年は人への投資として、海外からの従業員の確保やプロパー人材のレベルアップ育成に取り組み、更なる飛躍を目指したいと考えています。

地域に活力を与える米焼酎製造で称えられる
「ふくしま地産地消大賞」で合同会社ねっかが大賞!



▲賞状を手にする脇坂代表(中左)と副賞の絵皿を手にする三瓶さん(中右)、荣誉を称えた菅家町長と橋本副町長

1月23日、地産地消の優れた活動を称える「第4回ふくしま地産地消大賞」で、最高賞の「大賞」に輝いた合同会社ねっかの代表社員・脇坂齊弘さんと三瓶清志さんが役場を訪れ、菅家町長に受賞報告しました。

これは、県産品の消費拡大や観光施設の利用拡大など、県内で広く展

開する地産地消の取り組みを称えるもので、県が主催しています。今年度は24団体から4団体が選出され、見事「ねっか」が大賞に選ばれました。

地元農家などをつくる「ねっか」は、平成29年4月から只見産米を使用した米焼酎を販売し、海外の酒類品評会でも高い評価を得ています。梁取集落の空き家を利用して蒸留所やテイスティングルームを整備し、地域の交流の場としても活用されています。地域の小学生に田植えや稲刈りを体験する機会を提供し、子どもたちに郷土愛を伝える活動にも力を入れています。

受賞報告では、菅家町長が「香港の品評会で金賞、英国の品評会では2年連続の銀賞に輝き、今回ふくしま地産地消大賞を受賞し、『ねっか』の活躍が町のPRにもつながっています」と称えました。脇坂代表は「創業2年でこのような賞をいただき、大変うれしく思います。これも、地域の支えがあったからこそと思います」と話し、三瓶さんは「只見の農業を次の世代につないでいけるよう、今後も活動していきたい」と話しました。

目黒麹店の「極みそ300gカップ」
「ふくしま満天堂」のプレミアム商品に選ばれる!



▲内堀知事(中央)より表彰を受けた目黒麹店の目黒さん(後列左から2人目)

昨年の12月21日、県産農林水産物の6次化商品ブランド「ふくしま満天堂」の優良商品を決める最終審査が福島市で行われ、町内の目黒麹店「極みそ300gカップ」がプレミアム商品10点の一つに選ばれました。

この事業は、県産6次化商品のブランド力向上や販路拡大に向けて県が

昨年度から実施しているもので、首都圏の百貨店やバイヤーなどによる審査を経て、67事業者約170点の中から見事、極みそが選ばれました。この極みそは、只見産米を100%使用し、米麴を贅沢に使用したまろやかな風味が特徴の商品となっています。

表彰式では、目黒麹店の目黒大地さんが内堀知事から賞状とトロフィーを受け取りました。目黒さんは「プレミアム商品となったことを最大限活用し、販路を広げていきたい」と話しました。今後、プレミアム商品はふくしま満天堂ブランドとして、首都圏を中心に販売される予定です。



▲今回選ばれた「極みそ300gカップ」

地域の安全を守る決意新たに

「平成31年消防出初め式」

1月6日、朝日振興センターで「平成31年消防出初め式」が行われ、団員や婦人消防隊など約70名が出席しました。

無火災祈願祭では、菅家町長と目黒邦友消防団長が玉串をささげ、地域の安全を祈願しました。訓示では、菅家町長が「これからも町民の安全を守り、防火意識の向上を目指して頑張つてほしい」と述べ、目黒消防団長が「いつ起こるか分からない火災・災害に向けて、団員一同協力しあえるよう本年もよろしくお願したい」と話されました。出席者は、防火意識の高揚を誓い、地域の安全を守る決意を新たにしました。



▲団員や関係者の前で今年1年の安全を祈願する目黒消防団長

犯罪などをした人の更生支える

只見町の保護司に皆川徳二さん

前任者である山岸秀弥さん(只見)の任期満了に伴い、平成30年12月1日付で皆川徳二さん(只見)が、法務大臣から只見町の保護司に委嘱されました。

保護司は、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアで、現在只見町保護司会には酒井孝雄さん(坂田)、目黒芳雄さん(只見)、渡部由美子さん(黒谷)、皆川さんの4名が委嘱されています。

1月11日、山岸さんと皆川さんが役場を訪れ、菅家町長に委嘱報告を行いました。皆川さんの任期は2年で、犯罪予防活動など多くの活動を行う予定です。



▲委嘱状を手にする皆川さん(中)と約16年務めた前任の山岸さん(右)と菅家町長(左)

梁取地区の伝統行事

蚕養万歳と早乙女踊りで新年祝う

1月12日、小正月に行われる梁取集落の伝統芸能「蚕養万歳」と「梁取早乙女踊り」が集落内の5軒で披露されました。

これは、新年を祝い五穀豊穰・家内安全などを祈願するもので、地域の子どもから大人までが参加する伝統行事です。

はじめに、保存会長の山内泰介さんが「地域の皆さんのご協力をいただきながら、梁取の郷土芸能を守っていきたい」とあいさつし、区長宅や祝いごとのあつた家々、合同会社ねっかを回り、家内安全や豊作などを祈願しました。



▲小・中・高校生が早乙女と道化を披露した「早乙女踊り」

今年も東京渋谷で交流を深める

「只見もちつき隊」が只見をPR

1月14日、若者や外国人で賑わう東京・渋谷で「新春道玄坂チャリテイーもちつき大会」が行われ、町内の農家を中心とした「只見もちつき隊」約15名が、町産米の餅を振る舞いました。もちつき隊は、主催の渋谷道玄坂商店街振興組合などから依頼を受け、5年連続での参加となりました。

セレモニーでは長谷部健渋谷区長と橋本副町長があいさつし、その後米場者と一緒餅つきが行われました。会場では餅が販売されたほか、米焼酎「ねっか」や南郷トマトジュース「夏秋」の試飲も行われ、渋谷で只見の魅力が発信されました。



▲渋谷109の前で盛大に行われた餅つき大会、餅の売上金は全額寄付されました

雪まつりの会場準備に向けて

「雪運搬式」で作業の安全祈願

1月17日、第47回只見ふるさと雪まつりの大雪像などに使う雪の運搬式がJR只見駅前広場で行われ、オペレーターや関係者など約20名が出席しました。式では、菅家町長が「今年は雪が少ないですが、雪まつりが無事迎えられるよう皆さまのご協力をお願いしたい」とあいさつしました。続いての安全祈願では、菅家町長が雪を運ぶダンプカー6台のタイヤにお神酒をかけ、会場コーデイネーターの小沼信孝さんの発声によりお茶で乾杯し、作業員などの安全を祈願しました。雪まつりは2月9〜10日の両日開催されます。



▲雪運搬の安全を祈願する関係者の皆さん

明和小の菅野先生が

文部科学大臣優秀教職員として表彰

1月21日、文部科学省の「平成30年度文部科学大臣優秀教職員」として表彰された明和小学校の菅野総一先生が役場を訪れ、菅家町長に受賞報告しました。これは、教員の意欲を高め、資質向上を目的に実施しているもので、全国の国公私立学校から773名が選ばれ、うち福島県では15名が選ばれました。菅野先生は前任校で、生徒指導主事として学校内外の児童の問題などに組織的に対応する体制づくりに貢献し、成果を挙げたことが評価されました。受賞報告では、菅家町長がその榮譽を称えていました。



▲菅家町長などに受賞報告した菅野先生(左から2人目)

朝日小が5年連続で入選!

平成30年度県教職員研究論文

1月22日、県が主催する「福島県教職員研究論文」の表彰式が役場で行われ、朝日小学校が5年連続で「入選」となりました。これは、教職員の研究を奨励し、教員個々の資質向上を目的としているもので、朝日小は「つながりの中で只見愛を育みながら、学び続ける子どもへの育成を目指して」をテーマに、ESD教育についてまとめたものです。表彰式では、南会津教育事務所の佐藤則之所長から朝日小の小林義弘校長に表彰状が手渡され、小林校長は「5年連続の入賞は学校の励みになります」と受賞の喜びを語りました。



▲佐藤所長(左)から表彰状を受け取った小林校長(中)と同席した渡部教育長(右)

町内2か所の文化財で実施

「文化財防火デー」で防火査察

1月22日、「第65回文化財防火デー」に伴い、文化財の防火査察が町内の2か所で行われました。これは、毎年1月26日を「文化財防火デー」と定めており、全国的に文化財を大災から守るための活動が行われています。只見町では、国指定重要文化財の「成法寺」と県指定文化財の「旧長谷部家住宅(叶津番所)」で行われました。査察では、広域消防署只見出張所、只見町消防団の目黒邦友消防団長、文化財の所有者が参加され、消防設備や消防器具の点検を実施し、文化財愛護の意識を高めました。



▲旧長谷部家住宅(叶津番所)の査察を行う関係者の皆さん